

2019年JAF全日本ラリー選手権第2戦 2019年JAF中部・近畿ラリー選手権第1戦
2019年JMRC中部ラリーチャンピオンシリーズ第1戦 新城ラリー2019 Supported by AICELLO [JAF公認No.2019-2301]

開催日：3月15～17日 開催場所：愛知 格式：国内 主催：MASC [クラブ登録No.加盟23011]

フォト/中島正義、水野文幸、山口貴利、JAFスポーツ編集部 レポート/JAFスポーツ編集部

JN1クラスはLEG2最終セクションまでもつれたバトルを制した勝田範彦/石田裕一組が今季初優勝を飾った。



『難所』雁峰で底力を見せた勝田範彦WRXが今季初優勝

こ数年、最終戦決戦の舞台として定着していた新城ラリーが、今年は本格的なシーズンインを告げる第2戦として開催された。

実質的には約4カ月という短いインターバルを置いての開催だが、この間、全日本ラリー選手権はクラス分けなど大きな変更があった。クラス数こそ6クラスと変更はないが、新たな

JN5&JN6クラス / 1. JN5クラスは雁峰で大量リードを築いた天野智之/井上裕紀子組が早くも2勝を獲得。2. JN5で2位入賞は今季初参戦の岡田孝一/廣田幸子組。3. LEG1で2位で上がったJN6板倉麻美/蔭山恵組は3位でフィニッシュ。4. 中部の若手、佐藤光理/松井弘成組がJN5で3位に入った。5. JN6で女子勢最上位の2位に入ったというなりな/大西紗智組。6. JN6大倉聡/豊田耕司組も雁峰でのマージンが効いて圧勝した。

JN6クラスは開幕戦ではCVT車両を駆ったラリー女子達が全日本ラリーデビューを果たし、大きな話題を呼んだ。

昨年は同じクラスを戦った86/BRZとZC33Sスイフトスポーツが袂を分かつことになったのも今年の大きな特長で、86/BRZの事実上のワンメイククラスとなったJN3クラスは4名ものチャンプ経験者が集う注目のクラスとなった。

今年の新城ラリーは雁峰、鬼久保というお馴染みのステージと、サービス、ショートSSの舞台となる県営新城公園の3つに集約したコンパクトなラリーとなったが、雁峰は土曜LEG1は雁峰北、日曜LEG2は雁峰西と、性格は近

似するもコースは一切重ならない、ふたつのステージに分けられた。

注目のJN3クラスでまず飛び出したのはSS2雁峰北をぶっちぎった山口清司/竹原静香組86。続くSS3鬼久保ではこのステージを得意とする山本悠太/山本磨美組86が1回調にベストを奪い、この2台が頭ひとつ抜け出す。

2度めの雁峰北となったSS5では、山口組が4秒、タイムを落としたのに対して山本組は8秒近くタイムアップしてベストを奪取。このタイムが効いた山本組は0.9秒の僅差ながら山口組を2位に従えてLEG1を折り返した。

最終日LEG2でも山本組の速さは衰えず、SS8雁峰西では山口組を10秒差で下す今大会





JN1&JN2クラス / 7.バラエティに富んだ顔ぶれとなったJN2クラスは眞貝知志 / 安藤裕一組が得意の舗装を譲らず、開幕2連勝。8. JN2にレクサスRC Fを持ち込んだ石井宏尚 / 寺田昌弘組はベスト3本を奪って、ポテンシャルの片鱗を見せた。9. 今季からヴィッツでJN2に参戦の中村英一 / 大矢啓太組は3位に入賞。10. 開幕戦優勝の新井敏弘 / 田中直哉組はトップ争いに絡めず、3位にとどまった。11. 舗装3連戦の初戦は本命、勝田範彦 / 石田裕一組がまずは順当に勝利を収めた。12. 鬼久保では圧倒的な速さを見せた奴田原文雄 / 佐藤忠宣組だったが、2位に甘んじた。



JN3&JN4クラス / 13.14. 昨年の新城ラリーは苦渋の一戦となった山本悠太選手だが、今季初登場の一戦で快走を披露し、激戦区JN3を制した。15. 接戦の末、2位にとどまった山口清司 / 竹原静香組。「あんなペースで走った雁峰は今までなかった(笑)。クルマのバランスが良くなったので次も狙いたい」。16. ZC33S乗り換え組の内藤学武 / 小藤桂一組はその初戦を2位で終えた。17. 昨年の新城でも速さを見せた西川真太郎 / 本橋貴司組は3位でフィニッシュ。18. 昨年のJN4チャンプ、長崎雅志 / 秋田典昭組はJN3の初戦で3位獲得。19.20. JN4は「最初からブッシュした」高橋悟志 / 美野友紀組が新城2連勝。「オフにテストして足を直して安定感が出てきた。予想以上のタイムです」と会心の走りを見せた。



4度目のベスト。続くSS9鬼久保では山口組が0.6秒差で食らいつくも、最後までハイペースを維持した山本組が2日間ともDAYベストの快走で逃げ切った。

昨年の新城では86/BRZ勢最速のタイムで終えるもスイフトの前に敗れ、タイトルを逸した山本選手は、「リベンジ達成、ですかねえ(笑)。あまり好きじゃない雁峰でタイムが出せたのは、今までとは全然違う、いい路面だったので、タイヤと路面を信じて、コーナーの中間から踏み切って曲がれたからだと思います」と勝因を自己分析した。

総合でも2WD最速の5番手タイムでフィニッシュしたが、山口選手も6番手でラリーを終

えただけに、このクラスのハイレベルを印象付けた。「最初から全開で行って、これくらいのペースで走り続けないと勝てないクラスになっちゃいましたね(笑)。得意のグラベルの前にできるだけ舗装でポイントを稼いでいきたい」と次戦からのターマック2連戦にも意欲を見せた。

このJN3クラスに劣らない接戦となったのが、JN1クラスだ。LEG1から、絶対の自信を持つ雁峰で引き離しかかる勝田範彦 / 石田裕一組を、これまた鬼久保で無敵の速さを誇る奴



21. 中部・近畿地区戦DE-1 優勝の豊田信寿 / 千崎浩一組。22. 同DE-2 優勝の廣嶋浩 / 廣嶋真組。23. 同DE-5 優勝の中井育真 / 山田真記子組。24. 同DE-6 優勝の国沢光宏 / 梶浦僚組。25. OP-1 優勝の大橋渡 / 緒方和良組。26. OP-2 は齋藤伸司 / 石田昌孝組が優勝した。

田原文雄 / 佐藤忠宣組が追いつく展開が繰り返され、LEG1 は勝田組が1.8秒のリードで折り返した。

LEG2に持ち込まれたトップ争いはSS9鬼久保で5.5秒、勝田組を凌いだ奴田原組が遂に首位に立つが、最後の雁峰となったSS11雁峰西で勝田組が奴田原組をキロ1秒突き放す圧巻のベストを叩き出して勝負を決め、今季初優勝を飾った。LEG1ではトップ2台に食らいついた新井敏弘 / 田中直哉組が3位に入っている。

今回の新城ラリー JN1 クラスの激戦の様子は、「SPECIAL EDITION 雁峰決戦～勝田 vs 奴田原～」として配信中ですので、是非ご覧ください。

<http://jaf-sports.jp/shinshiro-rally/>